



「子どもたちも農業が好きになってほしい」と話す康史さん



今年から栽培管理支援システムを使い圃場を管理



色彩選別やフレコン準備もできるように機械を完備

### Profile

平成22年4月に就農し、祖母、父、母、弟、妹、妻、子ども2人の9人で暮らす。「ひとめぼれ」と飼料用米をあわせて約40ha栽培。JA北上地域青年部委員長や同地域青年部和賀支部長、地元の体育振興会事務局長を務め、北上4Hクラブにも所属している。モットーは「無理をせずに楽しく」。



趣味・マイブーム  
ドローンの操縦  
農作業用と練習用の2台を所有しています。手の空いている時は防除薬散布に備えて練習しています。

農  
追  
い  
人

# GREEN SOLDIERS

お ば ら や す し  
小 原 康 史

北上市

【コーナータイトルの由来】  
「GREEN SOLDIERS」は「グリーンソルジャーズ」と読み、「農追い人」と併せ、「農業に夢や希望を持って働く人」という意味を込めています。若手農業者や新規就農者を紹介しています。

ちょっ  
と  
いい話

## 地域とともに歩み続ける 北上地域青年部!

青年部は農業の担い手として、JAをよりどころとした農業の振興をはかるとともに、農業を通じた環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組んでいます。

令和5年度北上地域青年部では、青年部が全域で行っている学習会に加え、11月に北上地域部員のみでの学習会を開催しました。全農と全農いわての職員を講師に招き、スマート農業や栽培管理システムについて講演していただきました。

そのほかにも、各支部で地域の小学校への田植え・稲刈り体験の出前授業や農家組合と協力しての廃プラ回収などに取り組んでいます。



## 仲間との繋がりを大切に 地域農業を守り未来へ

北上市和賀町で、子どもたちとともにこれから始まる春の農作業に意気込む姿がある。若手の中心として地域農業の発展に尽力する小原康史さんだ。

水稲農家に生まれ、幼い頃から家業を手伝っていたという康史さん。地元の高校を卒業後は専修大学の経営学部に進学した。「農業への興味はあったが、当時は明確に就農しようとは考えていなかった」と話す。そんな康史さんの転機となったのは、県外の会社に就職し、休日を利用して帰省した時のことである。父の手伝いをしてい

ふとその背中が小さく見えた。子どもの頃から見てきた背中に「父も年を取っている」と感じた時、慣れ親しんだ家業を途切れさせたくないと思うようになった。その後、就農するならば若いうちに父が培ってきた技術や経験を身に付けた方が良くと考え、帰郷を決断。帰郷後は、本格的

に就農を見据え、新規就農者研修やアグリフロンティアスクールなどに参加して農業に対する理解を深めた。

就農当初に引き継いだ約15haの水稲栽培面積は、父の同級生や地域住民の協力もあり、倍以上の約40haにまで拡大した。広大な面積を管理する上で欠かせないのは、生産者同士のネットワークだという。「繁忙期に手伝ってもらったり、肥料に関する情報を交換したりと、地域の繋がりがあってこそできることがたくさんある」と話す。

今後の目標は、地域農業を持続させていくこと。「今が農業や地域活動の転換期だ」と話す康史さん。耕作放棄地の解消や積極的な農地の集積と集約化をはかり、水田農業の維持管理に取り組んでいる。地域の田園風景を守るのが自分の役割。農業の未来を思うその姿には確かな熱意が込められていた。

## ほらーの花巻

CONTENTS

●No.314/令和6年(2024)4月号

- 02 農追い人 GREEN SOLDIERS
- 04 特集1 令和6年度 新採用職員紹介
- 06 特集2 第48回 ごはん・お米とわたし  
作文・図画岩手県コンクール入賞作品紹介
- 10 ほらーのNEWSトピックス

- 12 かがやく女性部/旬の産直大百科
- 13 Smile Report/ほらーの広場
- 14 移動金融店舗車のお知らせ ●理事会だより・監事会だより/  
グリーンセンター定休日
- 15 Information/組合長より
- 16 シェフ永井のおすすめ ●編集後記